

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	0790100143		
法人名	企業組合 飯野の里		
事業所名	グループホーム飯野の里 1階		
所在地	福島市飯野町字原田11番地の1		
自己評価作成日	平成23年9月23日	評価結果市町村受理日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの運営理念に基づき、日々、ご利用者様それぞれに生き活きと生活していただくためのレクリエーションや、ご利用者様とスタッフの共生感が感じられるコミュニケーションを図ることに力を入れています。

また、地域社会との関わりに重点を置き、地域活動に積極的に参加し、また、当ホーム行事にも参加を要請する等して相互の協調関係の強化を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議の委員は多彩な顔ぶれで運営されており、各分野からの意見や提言が多く、運営推進会議の意義を十分に活かした取り組みをしている。そのため、地域密着型サービス事業としての役割を認識した事業を展開がされている。このたびの震災では地域住民や商店、行政等から多くの協力や支援があり、地域との連携が更に深まっている。
2. 事業所は職員の資質向上に努め、講習会・研修会等にも積極的に参加させ、職員も事業所の理念を基にサービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が、毎月のミーティング時に、職員に対して、事業所理念に基づいた意義の確認を行っており、その具体論についての話し合いもし、実践につなげている。	管理者は地域密着型の意義を理解し事業所運営に努めている。月2回の定例ミーティングにおいて管理者および職員が共に理念の重要性を認識し意識の共有を図り、日々のサービスに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者を始めとし、職員も、地域の活動に参加する等し、地域と利用者様との交流の基礎を築くべく、日々交流を深めている。	地域行事には積極的に参加し、事業所行事には地域住民の参加があり、相互に交流している。多くの交流を通して地域に根差した事業所となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホーム及び地域の町内会さん等で、相互に行事に招待しあったりという中で、認知症に対する理解が得られるようになり、また、物品の差し入れや、慰問等、ご支援いただくことも増えてきている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議に置いては、委員の皆さんに極力ご発言いただくことに努め、また、委員の皆さんと協力医療機関関係者との懇談の機会を設け、それらも、ホーム運営に反映し、サービス向上に努めている。	委員は各分野から構成され定期的に開催されている。協力医療機関の医師の日程に合わせ会議を開催したり、事業所行事に合わせて会議を開催するなど推進会議と事業所運営をうまく連携させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福島市飯野支所、立子山飯野地域包括支援センターを始めとして、市内各地域包括支援センター、居宅支援事業所様と緊密な連絡を取り、協力関係の強化に努めている。	市町村合併を機に今まで築かれてきた関係を維持発展させるため、職員も市に出向き情報交換をしながら協力関係強化を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員ともに、身体拘束をしない介護についての強い意識を持ち、細やかな見守りを心がけ、身体拘束の防止と、利用者様の事故防止、安全確保に努めている。	管理者及び職員はマニュアルを基に、共通の認識に立ち、身体拘束をしない介護を実践している。日中は玄関の施錠はなく職員の見守りにより対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに、高齢者の虐待防止についての強い意識を持ち、利用者様の尊厳を重視し、日々の介護に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度的な理解等については、事業所としての具体的な取り組みはしていない。管理者は、成年後見制度への研修出席実績あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等については、主に事務長が担当し、契約内容の説明等については、細心の注意を払い、十分な説明をし、ご家族様からのご理解・ご納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に、ご家族様の面会来所時に、ご利用者様の近況報告等の懇談の場を持ち、ご意見・ご要望をお聞きし、取り入れるべき事については、それらをスピーディーに運営に反映させるよう努めている。	家族の来訪時には談話室での懇談時間を確保し、情報の交換等を図っている。意見や要望にはスタッフ会議等で検討し、スピード感を持ちサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望については、月2回のミーティング時に、ご家族様のご意見・ご要望については、上記のとおり、ご来所時に、それら聞く機会を設け、それらを運営に反映させるよう努めている。	管理者は月2回職員との会議を持ち、職員からの要望や意見等を聴取している。管理者・事務長は職員とのコミュニケーションを大切にしており、何でも話せる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成22年12月より、賞与の支給を開始し、年間所得の増加を図る等、代表者は、就業環境の整備に努めており、それは、職員のやりがいに反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員全てに、外部研修の機会を平等に供与している。また、スキルアップについての職員の要望等を極力聞き入れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県高齢者グループホーム連絡協議会 県北方部管理者研修会や、同方部各種研修会に積極的に参加し、他ホームとの情報交換等に努め、当ホームのサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入所時実態調査の段階で、ご本人様と目線を合わせ、極力ご本人様のお言葉でご要望をお聞きし、信頼関係の基礎を築き、安心して暮らしただけのように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入所時のご見学・初回相談～実態調査までの段階で、ご家族様の現況・ご要望をお聞きし、信頼関係づくりに努めている。実態調査でご本人様と初めてお会いする以前に、ご家族様とのある程度の信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム入所に限らず、その時に、ご本人様・ご家族様に最もふさわしいサービスは何かを見極め、地域包括支援センター様等と連携し、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、食事の下準備、洗濯物たたみ、新聞紙折り等の作業や、レクリエーション等を、利用者様と職員が同じ立場で行うことにより、暮らしの共感に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との懇談の機会を設けるだけでなく、極力、気軽に話し合える関係づくりに努めており、ご家族様からの相談の電話件数が増える等、ご本人様を支援する体制の強化は促進されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより、ご本人様のご友人・ご知人様の面会の促進をお願いしている。また、ご本人様を馴染みの店、場所等にお連れするよう努めている。	友人及び知人の面会があり、馴染みの関係が途切れないよう継続に努めている。馴染みの理美容室やお店への買物等には家族の協力を得ているが、場合によって職員が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の共通の楽しみを見つける、ご利用者様の共同意識を高める等の目的に、ご利用者様が孤立することなく日々をすごしていただけるよう、レクリエーション活動の時間を増やす等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所後も、ご家族様からのご相談のお電話をいただく等、良好な関係が継続されることが多い。当ホームが関与して良いことには、積極的に支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員・各介護職員ともに、ご本人様の思い・ご要望を把握することに努めるべく、細めな見守りを通して、ちょっとした言動から、きっかけを発見する等、ご本人本位の介護が実践できるよう努めている。	利用者の思いや希望は、職員が日常のふれあいの中で、利用者の何気ない会話やしぐさから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のみでなく、ご本人様やご家族様から、生活歴や馴染みの暮らし方等について、継続的に聴きとりをするようにし、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、午前のレクリエーション、ご入浴時の様子、お食事の摂取状況、排泄状況、睡眠時の様子、会話内容等から、ご利用者様の日々の変化について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を細めに聴取し、担当者会議を定期的に開催し、現状に合った介護計画づくりに努めている。	利用者や家族の要望を的確に把握し、職員ミーティング等で検討し、利用者の現状に即した介護計画となっている。また、個別記録をもとにモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様のご様子、介護計画の実践状況等を日々の記録に記入し、毎日の申し送りや、定期ミーティング等で職員間で情報を共有し、有効な介護の実践に努め、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のハプニングやアクシデント等にも柔軟に対応できるよう努め、ご家族様からのご信頼の獲得に努めている。また、ご家族様からの各種のご依頼にも、極力お応えするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年は、大震災後環境放射線量の心配が残ったままであるため、自然資源の活用は少なくなったが、地域の町内会やボランティアグループ等との交流により、豊かな暮らしを実践する機会の増加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用様の、身体的・精神的負担の軽減のため、福島中央病院による2週間毎の訪問診療を中心とし、検査等の必要時には、ご家族様に連絡しご同意をいただいた上で通院している。受診報告も細めに行っている。	かかりつけ医の受診の支援は家族の同行を基本としているが、状態によっては職員が対応している。協力医療機関での受診には職員が同行しており、受診結果は家族に連絡し情報の共有をしている。また、協力医療機関から2週間ごとの訪問診療があり、利用者の身体的・精神的負担の軽減を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	福島中央病院・いいの診療所(わたり病院)担当医と緊密な連携を保ち、日常の様子を細めに報告・相談し、適切な受診・看護・指導を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	365日、24時間体制で、ご利用様の安心した治療・早期の退院のため医療機関担当者との緊密な連携体制を維持し、迅速な対応に努め、ご家族様にも安心を提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての当ホームの指針を、入所時にご家族様にご説明し、ご同意いただき、契約医療機関との協力により取り組んでいる。	重度化や終末期における対応指針は策定されており、利用開始時に利用者、家族に十分説明し同意を得ている。緊急時の対応については、協力医療機関と連携体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用様の急変等の際には、全ての職員が、冷静・迅速に対応できるよう、日頃より研鑽し、実践に活かし、ご家族様にもご安心いただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の大震災時も、全職員が一丸となり、冷静かつ迅速にご利用様の避難の実践が出来た。また、地域町内会の協力体制も整っており、今後もこの状態を維持するよう努めたい。	年2回消防署立会いの下避難訓練を実施している。訓練時には町内会や婦人会等の地域住民の参加も得ている。通報訓練等事業所独自の自主訓練も実施している。非常時の備品等も備蓄確保されている。	全職員が災害時に的確に避難誘導できるよう各種災害を想定した訓練を数多く実施されることが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者から、日頃から、言葉による虐待について、また、我々はサービス業者であるという自覚を持つようにとの指導がなされている。それを基として、ご利用者様の人格・尊厳を重視しつつ、声かけの対応に努めている。	管理者は職員に対して定例会議ごとに日常の言葉使いに対する重要性等を伝え、日々実践している。トイレや入浴などへの誘導声掛け等にはとくに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のご希望を極力お聞きするようにし、また、声かけや、会話の中で、自己決定の支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、あくまでも、利用者様のご意向、ペースを優先させていただきよう、徹底し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、ご利用者様のご意向をお聞きし、みだしなみやおしゃれの支援に努めているが、着過ぎの場合があるので、体温調節が困難になることの無いよう留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ご利用者様に食事を楽しんでいただくための支援として、味や雰囲気ははもちろんのことであるが、きざみ食、ミキサー食の方にも、見た目の美味しさをご提供するための検討に、常に努めている。	利用者や家族からの希望も受け入れ献立を作成している。利用者一人ひとりの状況に合わせ、きざみ食やお粥食等にも対応している。職員は利用者と共に寄り添いながらの食事支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様、個々の栄養・水分摂取量や、摂取方法等について、固定概念を持たずに、日々の変化について敏感になり、柔軟に対応できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前や毎食後の口腔ケアについては、ご利用者様の個々の状況に対応した支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、日々の記録に着目し、ご利用者様個々のサイクルを把握することにより、排泄の失敗を減少させ、トイレで自立にて行っていただけるよう努めている。	排泄チェック表を基に利用者それぞれのサイクルを把握しトイレ誘導している。排泄の自立によりおむつが軽減された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様個々の便秘の原因等について、主治医の意見を参考に、飲食物の工夫をし、極力内服薬を用いないよう、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の、その日の健康状態を把握しつつ、個々のご希望をお聞きし、入浴が楽しみになるような働きかけに努め、支援をしている。	浴室は手すりも多く広い。浴槽も一人利用にしては大型である。季節風呂(ゆず・しょうぶ湯)等を利用して楽しんで入浴できる工夫もしている。入浴嫌いの利用者には方法や時間や担当者を変え、週2回以上の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のご希望をお聞きしつつも、昼夜逆転になってしまうことの無いように、過ごしていただき、夜間良眠していただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で、ご利用者様の内服薬についての情報を共有できるよう提供し、その効果、副作用の確認等に注意を払い、主治医に報告・相談する等して、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様個々の嗜好に合わせて、それぞれが張り合いを持って楽しんでいただけるよう、裁縫、図化工作、塗り絵、合唱、テーブルゲーム等、種々の提案・支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望を聴取し、花見、季節ごとの町内行事、名所旧跡、観光、食事会等に出かけるように努めている。また、ご利用者様とご家族様の外出についても、柔軟に対応し、支援している。	事業所の近隣の公園への散策や散歩など、利用者の状態によって外出支援をしている。季節ごとに外出の機会を多く企画し実践している。外食会等も利用者の楽しみとなっている。また、利用者と家族の外出支援も奨励している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と職員の協議により、何名かのご利用者様には金銭を所持していただいております。また、ご利用者様間で金銭トラブルが起こらないよう、努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様とご家族様の電話・手紙による連絡については、それぞれのご希望をお聞きし、支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員とご利用者様とで、共用空間の装飾の作業をしており、季節感を感じつつ、過ごしやすく暖かみのある空間づくりに努めている。	共有空間の中央部の一段高い畳敷きのスペースは冬には掘りごたつになり、家庭的な雰囲気である。テーブルのほかにソファも設置され、利用者が自由にくつろげるよう配慮されている。また、手作りの装飾物など温かい雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ご利用者様それぞれの居場所が暗黙の了解でほぼ決まっており、気の合った方同士で、思い思いに楽しく過ごされている。それが継続されるよう、支援していく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご利用者様の居室については、プライバシー保護を優先に、温度・湿度管理、衛生管理に努め、過ごしやすい空間づくりを支援している。また、家具や調度品等についても、ご本人様のご希望をお聞きし、ご家族様との連絡により、整備に努めている。	フロアは段差がなく、畳とベッドの利用者は半々である。空調も完備され、自宅で使用していた家具や調度品も利用者や家族の希望により、自由に持込み利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全面を優先に、ご利用者様の自立度が低下しないように過ごしていただける環境づくりに努めている。		